誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

子どもたちの一番の理解者、良きコーチになりましょう！

早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田　貴一

必死に勉強する子どもの姿を見て、「勉強は子どもにしかできない。勉強しやすい環境を整えるのが私の役目」と考えていませんか？たしかに中学受験するのは子ども本人です。しかし、その日を迎えるまでに保護者の方々ができること、すべきことは体調管理や塾への送り迎えだけではありません。では、子どもたちの一番の理解者として、何に心がけ、どのようにはたらきかけるべきか、このことについて考えてみましょう。

成功体験でモチベーションアップ！

子どものモチベーションをアップさせるには、どうすれば良いでしょうか。

最も簡単な方法の一つが「褒める」です。たとえば、いつもよりテストの点数が良かったとき、「すごい！頑張ったね」と褒める、苦手な教科の勉強をしているのを見たときに「頑張っているね」と声をかける―。保護者の方からすれば何気なく発した言葉でも、子どもにとっては「お母さん、お父さんに褒められる」のはとてもうれしいこと。「もっと頑張ろう」「もっと褒めてもらいたい」と、学習に対するモチベーションアップにつながるはずです。

なぜ、褒められると学習意欲が高まるのでしょうか？これは、子どもも大人も同じですが、他人から褒められると、「努力して良かった」「頑張ったかいがあった」と、良い経験として記憶に残るからです。つまり、成功体験を積み重ねることで、自分に自信を持つことができるようになり、モチベーション向上につながっていくのです。

モチベーションは達成感や充実感でもアップする!?

モチベーションをアップさせようと、毎日、宿題をしている子どもを褒めても、そのうちに褒められることに慣れてしまい効果は少なくなります。テストの点数についても同じことです。そこで、「褒める」と並行して取り入れることをお勧めするのが、子どもたちが自分の取り組み方次第で成功体験を積むことができる「学習計画表」を作成することです。

この学習計画表を作る目的は、「安心して毎日の生活を送るため」です。というのも、子どもたちには、学校でも塾でも、行くたびに宿題が出されます。そのため、一度宿題が溜まり始めると、「終わっていないのに、また新しい宿題が出た」と、宿題に追われている気分になってしまいます。そのうちに、友だちと遊んでいても就寝中でも「宿題ができてない…」という思いが頭から抜けなくなり、身体や心に大きな影響を与えてしまうかもしれません。

しかし、塾から出される宿題は、どんなに量が多く見えても、終わらせられない量が出ることはありません。まずは全体量を把握し、それを提出までの日数で割れば、それほど多くはないはずです。そして、このようにあらかじめ1日の宿題の分量が目に見えてくれば、「今日の分はこれだけ。家に帰ってからやればできる」と遊びも心から楽しめるようになります。何よりも、その日にやるべきことが終われば、「今日の分が終わった！」という安心感や満足感、充実感、達成感を味わうことができ、それが「やればできる」といった成功体験につながります。

もちろん、この成功体験もモチベーションアップにつながるので、ぜひ学習計画表を作成してみてください。

成長過程に合わせた成功体験がカギ

何をもって成功体験とするかは、子どもの成長過程によって異なります。

乳児から幼児、小学校低学年頃までの基準は、親や先生など周りの大人に褒めてもらうことにあります。たとえば、積み木で何かを作り、親に「見て！見て！」と自慢するのはその一例です。次の成長段階としては、隣の子と比べるようになります。それが小学校4年生から5年生、遅い子どもならば中学生になる頃です。「あの子に負けないように頑張る」といったライバル心の芽生えがそれにあたります。そして最終段階として、他人ではなく過去の自分と比較するようになります。言うまでもありませんが、「頑張ったから成績が伸びた」、これは過去の自分と比較しているからこそ出る言葉です。

また、塾に通っている子どもであれば、最も達成感や充実感を感じるのは夏休みに行われた合宿などのイベントかもしれません。たとえば、早稲田アカデミーの夏期合宿は、かなりハードな勉強中心のスケジュールですが、それを乗り越えた経験は、その後のモチベーションアップにつながる成功体験になっていることでしょう。とはいっても、「夏期合宿に参加＝成績アップ」ではありません。成績が伸び悩むなどの壁にぶつかったとき、「あれだけのことをやり遂げた」という記憶が「今度も頑張ろう」という思いにつながり、乗り越えるための努力ができる―。これが成功体験なのです。

まずは子どもを理解しましょう！

当然のことですが、"子ども"にも個性があるため、他人はもちろんのこと、兄弟姉妹でも異なる性格を持っています。そのため、他の子どもが成功したからと言って、別の子どももその方法でうまくいくとは限りません。自分の子どもの個性をしっかりと把握し、その個性に合わせた成功体験を積ませることが非常に大切です。

そのためには、まずは子どもの声に耳を傾けてください。そして、会話が一方通行、つまり、親が言いたいことばかりを子どもに伝え過ぎていないか、注意してみてください。「～しなさい」「～やったの？」ばかりを親が言うと、子どもはなかなか自分のことを話さなくなります。また、「どうだったの？」と聞くことそのものは良いことですが、たとえば、読書した感想を「どこが良かった？」「どうしてそうなったと思う？」などのように聞き過ぎてしまうと、今度は親に聞かせるためだけに読書をするようになる危険性があります。できれば、聞かなくても子どもから話し始める―、そのような環境を整えたいものです。

理解のある良きコーチが理想

「保護者はコーチ」とよく言われますが、この場合の『コーチ』とは指導者ではなく、一番の理解者を指します。つまり、「保護者はコーチ＝一番の理解者」です。

しかし、子どもの個性についてどんなに理解していても、「何のために何をしているのか」が子どもや塾、学校とずれてしまっては、良きコーチとは言えません。たとえば、子どもは小学校高学年や中学生になると、「なぜ勉強するのだろう」と疑問を持ち始めます。それを聞かれたとき、親としてはどのように答えれば良いのでしょうか？「○○中学（高校）に行くため」、たしかに正しい答えかもしれませんが、これは将来的な目標ではありません。できれば、「あなたの可能性を奪わないため」と答えてください。

「可能性を広げる」と答える方もいらっしゃるでしょうが、実は生まれたときは皆、平等に可能性を持っています。ただ、そこからいろいろな選択をしていくなかで、可能性がだんだん狭まっていくのです。そして、ときには、一番の理解者であるはずの周りにいる大人が、無意識に可能性を摘んでしまうこともあるのです。「それは無理でしょ」「本当にできるの？」などの言葉、子どもに言ったことはありませんか？これはすべて、子どもの可能性を奪う言葉です。不用意に口にしないように心がけましょう。

「DREAM CAN DO. REALITY CAN DO.（思い描いたものは、実現できる）」。これは、NASAのラングレー研究所の門に刻まれている言葉だそうです。子どもたちが、輝ける将来に向けて大きな夢や目標を描けるよう、子どもたちの一番の理解者、良きコーチになれるよう、努力してみませんか。

ブログ 福田 貴一の 四つ葉café 公開中！

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者のためのブログです。
小3・小4 担任者　福田 貴一

早稲田アカデミーホームページ・四つ葉 café にて公開

中学受験に関するブログを公開しております。
このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。 早稲田アカデミー 検索